

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いらかの丘
(ユニット名)	はなみずき
所在地 (県・市町村名)	阿賀野市福永1567番地5
記入者名 (管理者)	鈴木 祥子
記入日	平成 20年 12月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に愛され親しみを感じられるホームを目指すため、独自の理念を掲げている。	温かみのある、理解しやすいものとなっており、職員は常に理念を把握し 反映できるよう努めている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に頭に入れ入居者に接し、理念の実現に向け取り組まれている。	理念を常に頭におき、再確認しながら職員間で理解を深めている。またサービス計画作成の際にも常に考慮しながら、作成している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に理念を分かり易く掲示してある。また 入居時には家族に分かり易く説明を行っている。家族も参加して頂いている夏祭りや ボランティアの受け入れも積極的に行われており、理解を求める場となっている。	ボランティアの方等が来られた際には理解してもらえるよう努めているも、地域の方々へは、理念を伝える機会が見つけれずにいる。理解して頂けるよう働きかけの場を設けたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所への散歩の際や回覧板を置きに行った際、または畑仕事をされている方と顔馴染みにはなっているが、ホームに来て下さる等の日常的なお付き合いではない。	今後はもっと夏祭り等の行事を含め、地域の方との交流を深めていき、気軽に立ち寄って頂けるような関係を築いていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中学校の生徒さん達による施設訪問や、近所の小学校の行事に招待して頂いたり、地域の避難訓練に参加して交流を深めている。	地域の清掃活動や行事にも積極的に関わっていきながら、地域の方々から親しみを感じてホームを知って頂けるよう、今後いらかの行事にもお誘いし積極的に交流を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>事業所主催での「認知症の人と家族の会」の方からの講演を開催して頂き、地域の方々にも参加して頂いた。</p>		<p>まだ開催回数は少ないが、今後も地域の方々の方々の力になれるよう取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解するよう努めており、前回の反省点、改善点について話し合う場を設け、改善できるよう努力している。</p>		<p>ユニット会議等で話し合いの場を設けてはいるが、全職員が理解しているとはいえない。今後さらなる改善と努力が必要。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で話合われた事は、文書にて全職員が把握している。そこで出された家族からの率直な意見を職員で話し合い、検討し、サービス向上に努めている。</p>		<p>運営推進会議では、いつも同じ家族の参加になりがちなので、なるべく多くの家族の意見を伺いたい為、各家族に声をかけさせて頂いている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者が月に2,3回は市役所に出向き、情報収集や相談を行い、考え方を共有している。フィンランドプロジェクトのモデルホームとして、体操を取り入れ、入居者の体力維持にも取り組んでいる。</p>		<p>今後も継続、協力しあい、質の向上に努めたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>2つの制度に関しては、管理者より資料を掲示され、学ぶ機会を設けている。</p>		<p>制度内容が変わることも有るため、確認のための学びなおしの機会も必要と思われる。その他、様々な福祉関連制度、法律についても学ぶ機会を設けていき、全職員が正確に理解できる様に努めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者から虐待についての研修を受けている。</p>		<p>高齢者虐待防止法関連法を元に、利用者が安全に過ごせるよう支援している。日常の業務の中でも注意を払い、行き過ぎた行為があれば、職員間で注意し、話し合う場を設けている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族には十分な時間を頂き、分かり易く丁寧な説明を心掛けている。不安に思っている事や疑問に感じている事について、一つ一つ説明し、理解、納得を頂いている。</p>		<p>ご家族には十分説明がなされているが、入居者様ご本人の理解や納得に関しては不十分なところがある。ご本人の理解と納得を得た上での契約は今後も課題となる。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部者へ表せる場は設けていないが、常に全職員が入居者の意見を聞ける態勢は整っている。その都度 様々な意見が聞かれるがそのままにはせず、管理者・職員で話し合い、より良い解決に向けて取り組んでいる。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回ご家族へは金銭の収支報告とその1ヶ月間の入居者の様子についての手紙を送っている。健康面や普段の生活に変化等あれば、その都度 報告や相談をさせて頂いている。</p>		<p>職員の異動や担当の変更も手紙に書いてはいるが、職員の顔と名前が一致しない家族の方も多いと思われる。今後の対応を検討する必要がある。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的にご家族から受けた意見は文書として残し、全職員で検討しご家族に報告している。外部者へ表す場も設け、その旨をご家族にも説明している。</p>		<p>今後も家族との対話の時間をもち、関係を深めていきたい。さらに、意見、要望など気兼ねなく表せる環境を整えていく必要がある。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者や管理者は常に職員の意見を聞ける姿勢にある。意見や要望も運営者に伝わりやすいよう文書として提出することもでき、反映されている。</p>		<p>職員の意見がすべて運営に反映できてない面もあるが、さらに話し合いの場を設け、検討していきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務にあたる職員で時間をずらしたり、勤務変更をして対応しているが、余裕があるとは言えない。</p>		<p>人員に余裕をもった対応を考えていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の職員はいるが、その都度それに代わる能力を有する者を採用している。申し送り等できちんと情報を共有し、職員もその都度フォローしている。また利用者へのダメージを最小限に防げるよう配慮している。</p>		<p>現在勤務にあたっている職員が大分馴染みの関係になってきている。しかし常に安心できる環境作りを心掛けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は必要と思われる外部研修に自ら参加したり、他職員にも参加の指示を出している。外部研修を受けた職員は研修内容、報告書を提出し、他職員全員が把握できるようにしている。また、看護師・救命士による内部研修を毎年行っている。	運営者・管理者の判断で、必要と思われる研修には参加の指示をだしている。個人的に希望する研修にも参加できる様 案内を出している。希望により参加した職員もいる。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホーム間で職員の交流会を行ったり、管理者会議を行っている。悩みの共有や意見交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。	同一法人での職員交換研修を行い、良い刺激を受けることができた。まだ始めたばかりなので、今後もできる限り多く取り入れ、施設間の交流と職員のサービスに対する質の向上を図りたい。又、今後も同市内のグループホームとの交流も深め様々な勉強をさせてもらい、サービスの質の向上に努めていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は職員の話を書く体制をとっている。職員間においても ユニット会議の時間など何でも話せる場を設けている。	体制はとっているが、より良いストレス軽減が図れているか疑問もある。 様々なストレス軽減法等の研修に参加して、職員間で工夫し 取り入れる必要があると思われる。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者・管理者は常に職員個々の勤務状態や 勤務態度の情報を共有し、各自 向上心を持って働けるような声かけに努めている。	一度 参加した研修でも 再度参加する事により、初心に返ることができ、向上心にもつながる。より多くの刺激になるような研修に参加できる機会を設けたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談にきた時点で、どのような状態なのかを良く聞き、面接時には本人自身の不安や求めていることをできる限り聞きとっている。そして本人にとってなにか一番良いのかを検討している。	1回の相談、1回の面接で信頼関係を築く事は難しいが、不安な気持ちが軽減されるよう、お話をよく聞き、お気持ちを受け止めている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談にきた時点で、家族の今の状況をよく聞き、面接時には本人も含めた中で、不安に思っていること、困っている事、今後どの様にする事が一番適当かを お気持ちを受け止めた上で良く相談する。また 今までの家族の体験や思いを受け止め共感し、理解するようにしている。	家族と本人の思い、または家族同士での意見の違いをよく把握し、家族の不安や困っている事について いい方向に向かうよう検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見て、家族や介護支援専門員と相談し、現状の把握、必要に応じたサービスの利用を検討している。		家族や本人の希望を元に必要に応じた、より良いケアを第一に考え、介護支援専門員と連携をとっている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来て頂いたり、事前にデイサービスを利用し、その際にホームへも来て頂き、雰囲気や職員、入居者の様子などを体験して頂きながら、少しでも納得して入居して頂ける様、様々な対応を試みながら工夫している。		本人が納得し、安心して移行できる様、これからも配慮していきたい。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意とされることを行っていき、その中で人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、さりげなく支援しながら、対等の立場で喜怒哀楽を共に感じられるよう心掛けている。又 お互いに学びあい、支えあっている。		本人だけでなく、家族からも、本人の生い立ちをお聞きすることで、本人が今まで生きてきた中での人生観をかいま見ることができる。そしてその話題を本人と一緒に話すことで、より一層信頼関係を築いていけるよう心掛けている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際や電話があった際には、入居者様の様子を伝えると同時に会話の時間を設け一緒に過ごして頂いたり、相談にのって頂いている。何かあれば、すぐ連絡をとりカンファレンスにも参加を呼び掛けている。		何でも気負わず話して頂いたり、相談して頂けるような信頼関係をこれからも築いていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの両者の関係をふまえながら、お互いの意見をお聞きしている。その上で、より良い関係が築けるよう支援している。		今後もより良い関係が保てるように支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から話を伺いながら、情報収集し、外出の際、馴染みの場所などにお連れしている。又 親戚の方が来られた際に撮った写真を手紙と一緒にお出したりして、交流を深めている方もいらっしゃる。		可能な限り外出をお誘いしている。これからもお誘いし、喜んでいただけるよう支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間でのトラブルは少なからずあるが、孤立することのないよう、職員が介在しながら、利用者同士と一緒に過ごせる様にしている。		入居者一人一人の性格を把握することで、気の合う方同士で過ごす事ができ、安心感も生まれ孤立を防ぐこともできる。隣のユニットやデイサービスにも関わりを広げ、交流を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後でも 家族からの相談にはできる限り応じる姿勢を示している。運営者・管理者が手紙により連絡をとっている。		サービス終了後においても 同じ認知症の家族をもつ側として、現在サービスを利用されている家族の方や当グループホームに、良いアドバイスや意見を頂きたいと考えている。
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし方については 本人の希望、意志をくみ取るように心掛けている。買い物や散歩についても希望を伺いできる限りこたえられるように努めている。希望や意向の把握が困難な場合においても、コミュニケーションを十分にとり、また家族からのお話を参考にしながら対応している。		日々の記録には、本人の声や思いを細かく記入し、面会時には家族のお話を参考にしながら理解できる様努めているが、これからもより深く利用者の思いを受け止め、接していきたいと思う。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査での資料を入居が決まる時点で全職員が目を通し、入居前の家族の話だけでなく、入居後においても、本人の話、家族の話からできる限り多くの情報を得て、記録に残し経過把握に努めている。		本人の生活歴にあった暮らしが送れるよう支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が利用者お一人おひとりの生活記録(1日の心身状態が細かく記入されている記録)に目を通し、業務に入っている。出来ない事にチャレンジするのではなく、出来ることに自信を持って取り組めるよう支援している。また 細かい事でも心身の変化を記録に残し、把握に努めている。		お一人おひとりの1日の過ごし方や心身状態が分かるよう記録に残したり、口頭でも申し送りしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てる際には、家族の参加を働きかけている。同席して頂けない場合においても、面会時や電話などを通して要望を伺い、ユニット会議にて良り多くの職員の意見を出し合っている。可能な限り本人にも参加してもらい、より良く暮らせる為の介護計画を作成するよう努めている。		家族、本人の参加も増えてきたが、カンファレンスの場では、心意を聞けない事も多い。常日頃の本人の様子や、状態について、本質を見逃さず観察する必要がある。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化のない方は3か月に1度必ずカンファレンスを行い見直しを行っている。状態に変化が生じた場合は、その都度カンファレンスを行い、計画を見直している。		本人の担当医の指示を仰ぐこともあるが、全てにおいて医師との連携が完全な物とは言えない。家族、本人の了解のもと、担当医との連携を密にとっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にセンター方式を取り入れより細かな情報を交換共有している。3か月に1度個々のカンファレンスを行ない、ケアプランを見直し実践、結果を介護計画の見直しに活かしている。		記録の記入の仕方等を変え、工夫を行っているが、まだ全員が記録の意味を把握しているとは言えない。入居者の希望や意向を理解するためにも、全職員が把握できるよう取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な病院受診等は、その時の家族の状況や要望に応じ、可能な限り職員が付き添って行く場合もある。		出来る限り本人や家族の状況、要望に応じ、その都度柔軟に対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	様々なボランティアを受け入れたり、こちらからボランティアを依頼したりしている。小・中学校の行事(文化祭や音楽祭)のお誘いもあり、可能な限り参加している。また 地域の消防訓練にも参加した。阿賀野地区の民生委員の方々十数名の施設見学もあり、今後も交流を深めて支援の協力を頂きたい。		家族の了解のもと、警察に写真付きの利用者名簿を保管してもらい、行方不明時などには、迅速な対応がとれるようにしておきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者が関係者と連絡を密にとり、情報を交換し、支援している。		常日頃より管理者は、介護支援専門員やサービス事業所と連絡をとるようにしており、要望があればスムーズに移行できるように支援している。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が関係者と連絡を密にとり、情報を交換し、支援している。		今後も協働していける様 連携をとっていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族にお願いし、本人が家にいた頃からのかかりつけ医に受診して頂いている。本人の状態をかかりつけ医に伝えるため、日頃の様子などを手紙に書いて伝えている。		本人がこれからも毎日を気持ちよく過ごせるよう、かかりつけ医との信頼関係を今後も築いていけるよう密に連絡を取る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診の際には、日常生活の様子、状態等を書いた手紙を医師に渡し、把握して頂いた上で診察して頂いている。又その都度、状況に対しての細かな指導を頂いて居る。		今後も指導して頂きながら、連携を取っていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームの看護師、もしくは隣接するデイサービスの看護師より、普段の健康状態の様子から緊急時の対応まで、必要時指示を仰いでいる。		共同生活の上での注意点を踏まえ、随時、研修会を開いてもらい、職員のスキルアップにつなげている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された場合は病院へ定期的に足を運び、医師や関係者と細目に連絡を取ることで現状の把握をし、退院後においても、その後の過ごし方や指導を医師に相談し、本人や家族にも安心して過ごして頂けるように配慮している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の本人の意向は、全入居者には聞けていない。家族にも今後の施設の選択の希望を伺ってはいるが、これまでも家族と医師を交え相談してきた。これからも本人にとって何が一番良い方法か考えていくこととする。		これからも本人にとって何が一番最善の方法か家族や医師らと話し合い、探っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者に対して、日々穏やかに安心して生活できる様、対応が可能か不可能か、最善策は何か等、職員間で細目に話し合い、家族の意見も取り入れながら、医師と連携し、指示を仰ぎ、ケアに努めている。		月1回のユニット会議や、カンファレンス、又、特変があればその都度、職員間で密に話し合いの場を設けている。重度化した入居者に対しては家族や病院の医師らと密に連絡をとりながら細やかな対応に心掛けている。また記録に細かく残していき、全職員で把握できるようにしている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケアマネジャー等関係者と話し合いや情報交換を行っている。		本人の好みや習慣等、自分らしい生活を送れるよう、家族やケア関係者間での情報交換をしていき、ダメージを防ぐよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>対応や言葉掛け一つでプライバシーを損ねるし、虐待にもつながる為、個々の話しに耳を傾け 人権を尊重した対応に心掛けている。又 研修等で知識を得る為に勉強を心掛けている。</p>	<p>認知症に関する知識を得る為に定期的に研修等を取り入れていきたい。また 職員が個々に勉強する事も必要。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>お一人おひとりの力量を理解し、その方に合った話し方や何を求めているのが希望に添えられるよう心掛けている。また新たな力を発揮できるよう 会話から探ってみたり 試してみたりして どうすれば出来るかを考えながら環境づくりに配慮している。</p>	<p>介護計画を作成する際には、本人も交えてカンファレンスを行っており、日々の生活での様子を職員と話す場がある。ご家族の方にも参加して頂けるよう働きかけている。本人の意思と希望を尊重し無理強いほしないようにも配慮している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者本人が 何をしたいのか どのようにしたいのか 希望に添えられるよう柔軟な対応を心掛けているが、時には話し合いにて納得して頂き 次回には必ず希望に添えられるよう配慮している。</p>	<p>自己主張の苦手な方に対しても 何をしたいか、どのようにしたいかを探り 希望に添えられるよう対応している。</p>
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の方の協力を得て馴染みの理美容院を利用されている。また 行きたいと希望された時にはすぐに連絡を取れるよう配慮している。家族の付き添いが困難な場合は職員が対応したり、ホームまで理美容院の方から来て頂いたこともある。</p>	<p>行きたいと申し出があった場合には すぐに家族に連絡し協力を得ている。いつまでもおしゃれや身だしなみに興味を持って頂ける様支援していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も一緒に同じテーブルにて会話を楽しみながら食事を摂っている。準備や片付けも 1人ひとりが得意とされることやできる事を職員と一緒に協力し合いながら行っている。</p>	<p>週に1度希望献立の日を設けている。又 買い物にご一緒した際には 好みの物があれば購入し献立に取り入れられたりして 楽しみのある生活を送って頂ける様配慮している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>常日頃から飲酒、喫煙を希望される方はいない。濃い味がお好きな方にはでデリ醤油(醤油・みりん半分づつ)をご自分だけのものに掛けて、好みの味で食べて頂いている。日々の会話から好物や食べたい物等を伺い、食事やおやつに取り入れている。</p>	<p>個々に好みの物は違うが、なるべく全員にお聞きし、お出ししていくようにしている。遠慮される方もいるが、普段からそれぞれの好みをよく把握していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1日中リハビリパンツを使用されている方は1名おられるが、排泄パターンを頭に入れ トイレへの声掛けを行っている。また他の方達の排泄パターンも把握し さりげなく声掛けし、失敗を防いでいる。		プライバシーに配慮しながらも、定期的な声掛けはこれからも行って行きたい。また リハビリパンツから布パンツに変更できるよう考えて行きたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、入りたくないという方や、入りたいという要望があれば変更している。また 声掛けのタイミングを考えながら、その方に合った会話を心掛け、気持ち良く入浴して頂けるよう配慮している。		入浴する事に不安感をもたれている方がいるが、安心できるような声掛けと、羞恥心に配慮した入浴介助を行っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の入眠時間は様々である。その方の状況に応じて対応している。また 夜間時々起きてこられる方が居られるが、安心して休まれるような声掛けや対応を心掛けている。		夜間起きてこられる方には、お茶をお出ししたりして安心して眠りにつける様な声掛けをしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭での状況、生活歴を家人やお一人おひとりに伺い、得意とする事を役割とし、張り合いのある生活を送って頂ける様支援している。また 楽しんで頂ける事は何かを探り、気晴らしできるような環境作りに努めている。		何をすると楽しんで頂けるか、都度会話の中から探り出したり、家族にお聞きしたりして情報収集に努める。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理する事は難しいが、個人用のお小遣いを家人了解のもと、自由に必要時遣って頂いている。中には支払いが出来る方もいるので、職員見守りのもとお願いする事もある。これからも続けて行きたい。		事務所で預っている事に関して、ほぼ全員の方から理解を頂いており、使いたい時には事務所に来られ、職員に声を掛けて下さっている。希望があれば財布をお出しし、買い物時に職員見守りのもと、自由に使って頂いている。これからも希望があれば楽しみの一つとして支援して行きたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に外へ行き来されている。その人の体調やその日の天候にあわせ、職員が付き添う場合もある。また 毎日の買い物にも順番にお誘いしながら、気分転換をして頂けるよう配慮している。		数分で姿を見失うことが何度あった。ヒヤリハットも何度か出ている為、職員間での口頭での申し送りや、細目な所在確認を行っている。また プライドに配慮したさりげない声掛けでホームに戻って来て頂いている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1度、全員で外出の日を設け、お一人お一人の行ってみたい所を伺い、希望に添えられるよう計画を立てている。家族の方にもお誘いはしているが、都合が合わず、実現していない。入居者が家族と受診以外に出かける事もあまりない。		その時々々の季節を感じて頂けるよう職員・入居者・家族らと一緒に出かけられるよう今後も働きかけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば書いて頂いているし、年賀状には全員から一言書いて頂いた。手紙は家族に向け、または親族の方に向け短い文章ながらも書いている方もいらっしゃる。		家族や親族の方達等、大切な人達を思う気持ちを これからも手紙や電話等で自由に伝えていけるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問出来るようにしている。一緒にリビングや居室で過ごされたり、時折職員も入り、近況をお話したり、お聞きしたり、一緒に写真を撮って差し上げたりと、場の雰囲気を考えながら、過ごしやすい空間作りに配慮している。		家族だけではなく、親戚の方々や、古くからの友人等、多くの方々から来て頂いている。これからも もっと気軽に来て頂けるような雰囲気作りに努める。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でも指導を受け理解しており、拘束はしていない。		拘束にも様々な種類があり、管理者による研修も行っている。これからも拘束のないケアを全職員が徹底していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には職員が鍵をかけることは全くしていない。玄関でも夜間のみ施錠しているが それ以外は誰でも外へ出かけられるよう開放されている。		何度も外へ出られる方がいるので 玄関のチャイムは戸の開閉時に鳴るようにしており、普段から自由に外へ出掛けて行っては頂いているが、細目な所在確認は今後も行っていく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々必ず入居者全員の所在・様子を把握し 見守りを行っている。夜間居室に施錠される方々には 許可を得て 開錠させて頂き 毎夜 巡視を行っている。		外に出られた方がいても すぐには引き止めず、所在確認、見守りをし、一緒に歩く等している。今後も危険のない様細心の注意を払っていく。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液等は鍵の掛かる決められた場所に保管されている。キッチン内のアルコールや洗剤、包丁なども夜間は目の届かない所に片付けてあり、危険を防止している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等の対処法として、マニュアル作成、内部研修を行っている。起きてしまった事故等にはヒヤリハット報告書等の作成、提出、その後の改善策を職員間で注意、話し合い、防止に努めている。		色々な場面でのマニュアル作成、看護師からの内部研修、消防署員参加のものと火災訓練等をこれからも行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを見直し、より迅速な対応が出来るよう繰り返し訓練を行っている。		全職員が全てを把握しているとはいえないが、一人ひとりが様々な訓練に参加し、全員が把握できるようにしていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中に昼と夜の想定で訓練を行ったが、全職員が方法を身につけてはいない状態。地域の方々には協力をお願いはしてある。		夜間想定の方針訓練を定期的に行い全職員が身につけていける様にしていきたい。また 地域の方も含めた訓練を行ってみたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	お一人おひとりの家族へ状況変化に応じ、その都度説明を行い、納得して頂き理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変に気づいた時にはすぐに報告し合い、管理者や看護師、リーダーにも連絡を取ることとしている。又家族にも連絡を入れている。休日の職員にも確実に情報が伝わる様細かく記録に残している。		日頃から異変にすぐ気付くよう、必ずお一人おひとりと接するようにしている。また 記録には必ず明確に残すようにしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬の目的、副作用、用法、用量を全職員が全て把握しているとはいえない。変化があったときにはすぐに医師、家人に連絡している。薬の辞典を用意しており、すぐに調べられるようにはしてある。		全職員が薬の目的、副作用、用法、用量を確実に把握する。
75	便秘の予防と対応 いる	便秘症の方には多めに水分を摂って頂き、水分量をチェックしている。また繊維の多い食物、海藻類を多く取り入れた献立を作成している。身体を動かして頂ける様毎朝体操の時間を設け、朝以外でも沢山動いていただけるよう環境作りをしている。		排便の有無を必ずチェック表に記入し、排便がないときには食事の汁物に糸寒天、おやつに寒天デザート等をお出しして様子を見ている。場合によっては腹部マッサージを行っている。かかりつけ医にも相談し下剤を服用されている方もおられる。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には全員に歯磨き、もしくはうがいをして頂いている。毎食前には深呼吸を取り入れている。入れ歯を定期的にポリデントで洗浄しており、歯ブラシ、コップも定期的に消毒している。		歯磨きをされたか、否かの声掛けは行っている。しかし全職員が隅々まで磨けているかは不明。介助の必要の方には仕上げ磨きを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できる様、一人ひとりの状態や力、習慣のに応じた支援をしている。	常にチェック表にてその日の状況を記入している。摂取カロリーは把握されていないが、1日30品目品を取り入れ、栄養のバランスを考えている。		慢性膀胱炎の方については 主治医から水分摂取量の助言を受け支援している。体重増加傾向の方にも家族の了解のもと、コンニャク米等で個別に対応したこともあった。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが整備されており、職員は講習を受け周知されている。 日常的にうがい、手洗い、消毒を実施している。インフルエンザの予防接種も全職員が行っている。		看護師より様々な内部研修が行われている。これからも定期的に研修を受けながらマニュアルの徹底化に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	肉、魚、野菜で使用する包丁、まな板を分けており、毎日消毒している。衛生管理マニュアルが整備されており 安全と清潔、衛生に努めている。		野菜を先に切り、魚、肉は後で取り扱うことで食中毒の予防に努めている。週2回の冷蔵庫掃除、消毒の際には、食材の確認も必ず行い、常に新鮮な食材を管理、調理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まではスロープになっており、入居者が歩きやすいように設計されている。季節の花を植え、親しみやすい雰囲気を作り出している。畑には遊歩道を作りベンチを置き、癒しの散歩コースとなっている。入ってすぐの壁にはホームでの様子を写真に撮って飾り、1ヶ月毎に貼り替えおり 行事などをお便りにしたものを掲示している。		気軽に訪れて頂けるよう、ホームでの様子が伝わりやすく、温かみのある玄関回りに心掛けている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花を飾り、新聞を置き、家庭的な雰囲気を作り出している。ソファは入居者様に合わせた物を用意し、その時々で配置換えし、居心地良く過ごして頂けるようにしている。		入居者様と一緒に考え、季節感や家庭的な物を取り入れていながら、親しみを感じれる空間づくりに努めていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には 食堂テーブルの他に置コーナー、ソファ、歌が聴けるようにラジカセが置かれてあり、気の合う入居者同士や面会に来られた家族とくつろいで過ごせるようになっている。また 中庭や畑にはベンチがあり、いつでも自由に過ごして頂いている。		入居者様とコミュニケーションを図りながら、日々居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物を居室に置かれている方が多く、馴染みのある環境を作り出している。お誕生日の写真や色紙、家族の写真等をお部屋に飾り、暖かみのある空間作り心掛けている。		本人の馴染みのある物、落ち着ける物等があったら持って来て頂ける様家族に働きかけている。時々入居者の要望に応え、模様替えをお手伝いしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、夜間の掃除の際には、換気を行っているが、冬場は換気をする回数が減るため、入居者の体調に配慮しながら、温度、湿度調節を細目に行っている。		入居者の状態、ホーム内の状況に合わせ 換気、湿度調節し、換気する機会を設ける。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーを施している。室内はトイレも含め手すりが設置されており、本人の足で歩ける様に配慮している。車いすでも入れるようなスペースも確保され、安全面には考慮されている。		お一人、歩行困難な場合に限り歩行器を使用して頂いていた。他の方々においても、今後歩行状態の変化が見られる可能性もある為、常に危険因子はないか、心配りする必要がある。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お一人おひとりの得意な事を把握し、本人が出来ることは職員が見守りさせて頂きながら、力を生かせる場を作り、意欲を感じて頂けるような環境を作っている。		お一人ひとりのペースに合わせ、分かる力を探り、記録に残しながら、ケアプランにも組み込みサポートしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇があり、種まきから収穫まで楽しみを感じながら活動できる場となっている。また中庭や畑にはベンチもあり、散歩を兼ね、憩いの場になっている。		収穫の時期には入居者様が自由にお好きな野菜を収穫され、楽しんでおられる。また くつろぎの場にもなっている。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ホーム周辺は緑に囲まれ、自然に恵まれている。道路にも面しておらず、事故等の危険性も少ない。
- ・食材に関しても地元の食材（米、牛乳）を取り入れたり、ホームでとれた新鮮な野菜を食べて頂き美味しいと評判。畑においては、利用者の活動の空間や、癒しの場になっている。
- ・食事作りや買い物など、家事活動を共に行い、自分で出来る事は必要以上に手を貸しすぎず、『その人らしさ』が発揮できる場面作りに努めている。
- ・開設からセンター方式を取り入れており、ケアプランでは日頃のアセスメントを元に1人ひとりがその人に合った生活を、心豊かに過して頂けるよう取り組んでいる。